

物流支援システムの開発



運行管理システム「ギガッツ」

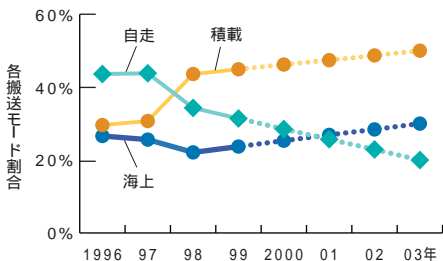
情報通信技術やGPS(全地球測位システム)技術を駆使した、高度な運行管理システムの開発にも積極的に取り組み、最近の例としては1998年に「ギガッツ」を商品化しました。

「ギガッツ」は、物流事業管理ソフトと車載端末から得られる車両データとを組み合わせた運行管理システムで、お客様の事業形態に則したきめ細やかなカスタマイズができるのが特長です。このシステムを使用することで、適切な配送ルートの設定や個々の車両の運行状態管理による省燃費運転指導を実施でき、より効率的な車両の稼働(=省エネルギー)が可能となります。

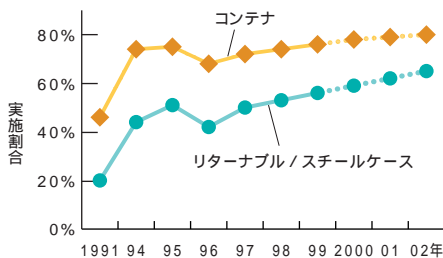
一方、インターネットやデータ通信をはじめ衛星通信など、情報通信技術分野の進歩には目覚ましいものがあります。いすゞはこれらの最先端技術も取り入れ、さらに高度な物流管理システムを開発すべく、引き続き積極的に取り組んでいます。

自社製品・部品物流の合理化

車両搬送国内搬送モード推移



梱包資材の転換



自社製品輸送の効率化

製品車両の国内搬送過程における排出ガスや消費エネルギーの削減のために、搬送モードを「自走輸送」から車載車による「積載輸送」と内航船による「海上輸送」へ重点シフトしています。

積載輸送については、小型ロング車の積載化により積載率が增加しており、今後は中型車まで積載化を拡大していきます。海上輸送については、新たな海上輸送ルートの設定や納期管理を充実させることで、海上輸送の標準化をめざします。

梱包・包装資材の低減

梱包・包装資材の木材使用量を削減するために、海上輸送モードのコンテナ輸送化を積極的に推進し、木箱をリターンブルケースやスチールケースに転換しています。1996年、1997年は、コンテナ船市場である東南アジア向け輸出が減少したため、コンテナ船比率が低下しました。今後も活動を継続し、木材使用量を削減していきます。

購入部品輸送の効率化

1994年より、省エネルギーなどを目的に生産調達部品の部品メーカー共同輸送に組み込み、2003年に、50%の部品メーカーを共同輸送化する方向で進めています。